

(様式1)

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
. 理念に基づく運営 1. 理念と共有				
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らしが出来るように事業所独自の理念を掲げている。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実践を日々取り組んでいる。施設内にも掲示しており、会議の際は唱和し、ケアの振り返りをしている。		
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	町会、消防、警察など通信の配布、町会の行事の参加施設の行事への参加をとうして理念を理解してもらえようにと取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○ 隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	商店街の買い物時、店員さんと顔見知りとなっておりもたついても上手に対応してくれる。施設を留守にする場合TELをいれてお願いしている。行事の時はボランティアとしてお手伝いしてくれる。町会の行事への参加、町内回覧版、施設の行事へお誘い等して交流を深めている。キャラバンメイトの講習を受けており、独自で昨年ミニ講習をしている。今年は市と話し合いの段階である。	○	今後やる方向で市と話を進めており、実践していく。。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解しており、評価を生かし、改善事項は会議をもち、実践に移し評価を生かしている。	
6	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会で報告し、意見交換をしアドバイスを頂いている。そこでの意見をスタッフに伝えサービス向上に生かしている。	
7	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	推進委員会、ネット会議、書類関係、困難事例など相談に乗ってもらうなど質向上の努めている。	
8	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修を受け報告会をを行い、理解している。入居者1名利用している。	
9	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を受け報告会をを行い、理解している。絶対あってはいけないことを全職員が周知徹底している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○ 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には相手の方が納得できるように時間を掛けて説明している。説明しながら項目毎に確認している。説明後も質問、疑問があればいつでも聞いてくれるように説明している。	
11	○ 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口があること、担当者の紹介、苦情箱に設置の説明を行っている。面会時など困っている事はないかを聞いている。	
12	○ 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	受診後は受診報告をしている。通信発行、面会時、ご本人のホーム内での様子を伝えている。金銭管理についてはレシートを1、2ヶ月ごとにまとめ通帳と照らし合わせ、確認の印鑑を押してもらっている。レシートのコピーは通帳に貼っている。	
13	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設けているが、その他に、入居者様、ご家族の思いを聞くように心がけている。	
14	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1 / wのカンファレンス、1 / Mの全体集会で意見を出しあっている。提案、改善点などは経営者に伝え反映させている。	
15	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者様、ご家族の都合、要望におおじて柔軟な勤務体制、調整が出来る人員配置であるが、無理な時は、法人から応援をしてもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動、退職時は入居者様に説明し、申し送りもされスムーズにバトンタッチが出来るようにがダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
17	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	誰もが、年最低1回は研修を受けるように計画している。受講後は報告会を行い皆のものにしている。概ねの年間計画を立て、その中で随時入ってきた研修を入れていく形である。ホーム内でも全体集会、カンファレンスの時間を利用して行なっている。		
18	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換実習を1回行った。年2回行う予定である。その中で職員同士の情報交換を行い、ケアの向上に生かしている。行事への参加、応援という形で交流が増えてきている。		
19	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	親睦会を法人で年2、3回行っており、ストレスの軽減を図っている。常務は月1、2回はホームを訪れ、差し入れあったり、声がけてくれ労を労ってくれる。		
20	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	入居様に対しベストなケアを提供するため各自学ぶ気持を持ち、資格取得にも意欲的である。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○ 初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	問い合わせから始まり、入居後も心配事、不安など特に入居1ヶ月位は特に話を聞く機会を意識的に持っている。来所できない方はTELで報告し話を聞いている。	
22	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初は気兼ねもあってか遠慮がちに言われる方は、まず話を聞きその中で整理し、支援の見極めをしている。	
23	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居様の性格、嗜好などをつかみ、他入居様への紹介、スムーズに動けるように気配りし誘導している。ご家族、入居者様の意向に沿った形に工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の意向、趣味、得意分野など把握し出番の設定をできる限り一緒に行動し、過ごす、支えあう、教えあう関係作りを作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	アセスメントの中で、家族、入居者様の思いを聞き、共有し、共に支えあう関係作りを行っている。		
26	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族がホームに気安い雰囲気作りに心がけており、家族の役割を取らず、家族の状況も理解した上でより良い関係作りを支援している。		
27	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	TEL、手紙は自由であり、面会も多い。		
28	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士助け、支えあう関係作りに気配りし、1人孤立しないように気配りしている。		
29	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去した後もどうしているのかとTELしたりしている。困った事があればいつでも相談におおじる事を伝えている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望、意向の把握に努めている。プライバシーに配慮しながら本人本位に検討している。	
31	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで把握している。一度では把握できる物ではなく経過を追って把握に努めている。	
32	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	1人1人に一日の過ごし方を心身の状況におおじて対応している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画立案する前本人、家族の意向を聞き、計画を立てている。出来た段階で、家族と、本人と話し合い、説明をし了解、確認をとっている。	
34	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間はもちろんの事、変化が生じた場合現状に即した計画変更、見直しを行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録の記入、申し送りなどで、気づき、情報を共有し介護計画見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望におおじて臨機応変に柔軟な支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	GHの意向、本人の意向を汲み、地域行事の参加をしている。その際、協力してもらっている。		
38	○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	要望ないため行われていない。		
39	○ 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括センターに困難な事例、その他相談に乗ってもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を踏まえ希望のかかりつけ医を持ち受診している。かかりつけ医に本人の状態、注意事項など情報交換しアドバイスを受けている。受診した際は家族へ報告をしている		
41	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医とのつながりが取れており24時間体制である。夜間受診も可能であり随時アドバイスをもらえる関係である。		
42	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が配置されており、協力医院との協力もあり。又かかりつけ医、看護師との情報交換も出来ており健康管理に努めている。		
43	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した際は、病院スタッフと話し合いを持っている。		
44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時確認している。かかりつけ医が対応する事になっている。かかりつけ医と情報交換を密にしている。		
45	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医療加算とっておらず、ホームで出来るところまではやるが、看取りは、現段階ではやらない事でかかりつけ医と話し合いが出来ている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによるダメージを家族に説明し、家族、スタッフ双方の情報交換が大事な事を説明し協力をお長居している。		
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	否定しない介護、プライバシーの配慮、個人情報の保管など目配り、気配りをしている。記録は利用者の目の届かない所に置いている。		
48	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来るだけ自己決定するような働きかけを行っている。又、出番を意識的に作る事もある。出来ない方は、その人に合わせた決め方の支援をしている。		
49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の思い、ペースに合わせた支援に心がけている。	○	実際、書き物、その日のうちにやらないといけないうものが多くともすれば業務優先になってしまうこともある。少しでも多くそばにいたために、業務の見直しを検討中である。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
50	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容院の支援をしている。美容師の資格保持者がおり、家族、本人の希望があればホームでやってあげている。外出、行事など化粧したり支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせスタッフと一緒に家事分担をし、昼食作りを行っている。下ごしらえなどは利用者様のほうから催促が合ったりする。		
52	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	当ホームはタバコ禁止としている。幸いタバコ、飲酒の習慣のある方が入居されてこない。自販機、ホームで用意した飲み物、おやつなど、状況に合わせて楽しめている。		
53	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排尿パターンをつかんでおり適宜誘導している。		
54	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	W2回、その他は、希望時、必要時としている。時間はその人のペースに合わせてゆったりとはいって頂いている。		
55	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活習慣、体調に合わせ、休息、安眠できるように支援している。飲み物の提供、スタッフの傍のソファで横になってもらったり話し相手になってたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の生活歴を把握し、現存能力を引き出し、役割りを持っていただき、達成感、充実感を感じれるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が管理できる範囲内で自己管理している方もいる。スタッフ管理の方は、必要時、本人に渡してスタッフのアドバイスの元に行なえるように支援している。		
58	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ外へをモットーとしており、散歩等、ドライブ、中庭でベンチに腰掛け日光浴など戸外に出ることを意識化しており、機会を見つけては出かけている。		
59	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	生家、自宅、親類などは家族と確認してから行なっている。花見、遠足は家族も参加されている。ドライブ、ミニ遠足など企画し行なっている。		
60	○ 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、TELは自由である。		
61	○ 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも大歓迎である。ゆったり過ごせるように、時間におおじて、飲み物、食事を提供している。サロンで過ごす事も可能である。		
(4) 安心と安全を支える支援				
62	○ 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束は禁止であることを周知徹底されており、具体的な行為も理解している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛ける事の弊害を理解しており、しないケアを行なっている。どうして物場合は、張り紙、他居者にも協力してもらっている。		
64	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーには充分配慮している。利用者が常に介護者の視野に入るようにし、安全に気配りしている。		
65	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者に状態に合わせたものを使用している。危険と思われる物はホーム管理としている。		
66	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期的な学習会、緊急連絡網、消防署の講習など事故防止に取り組んでいる。		
67	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ホーム内で演習を定期的に行なっている。		
68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難通路に物を置かない、避難場所の確保、ホーム周辺の店舗、町内の協力をお願いしている。訓練に町会の役員も見たいということで参加されている。定期的に訓練を行なっている。非常時備品、食物をそろえている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	契約時にリスクについて説明している。状況変化に伴い家族に説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者の言動に気をつけ早期異変発見に気をつけている。その際は、速やかにかかりつけ医の情報を入れ対応している。それと同時に家族への連絡もしている。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、服薬管理簿でチェックしている。処方変更、などは申し送り簿記入、口頭での申し送りもする。介護記録にも記録し申し送りされている。		
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘は精神状態にも影響する事を理解しており毎日排便チェックを行なっている。繊維性食物の摂取、水分1200ml(食事も含む)を目安にして水分補給を意識している。又体を動かす事も意識している。		
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きを行ない清潔保持に気をつけている。入れ歯の方は洗浄液を使用している。		
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士、調理師を中心に献立作りの時確認したりしている。一人一人の摂取量の把握、状態、習慣におおじて支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを作成しており、実行している。		
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の衛生管理に努めている。新鮮な食材、使いきりするようにしている。冷蔵庫の清掃も定期的に行なっている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの花壇、玄関先の鉢植え、玄関が普通の家らしくはいりやすい作りになっている。外で楽しんでいたり、草取りをしていると、声を掛けてくれる。		
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	TVの音量、照明、スタッフの話し声、足音、など不快な音を出さないように気を使っている。生活観を出すため、季節の花を庭からつんできたり、ホームの飾りつけを一緒に行っている。厨房からは、まな板の良い音、料理の美味しい匂いなど生活観が出ている。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンのほかに一部畳フローリングの部屋を増築した。そこで、お茶したり、寝そべったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ愛着のある物、使い慣れた物を居室に置き心地よい居室作りを説明している。風土的なものもあってか私物がしくない。それでも、愛着のあるもの、亡夫の写真、子ダンス、小物などは入っている。		
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	体感温度、湿度計、温度計を基準に管理している。換気はこまめに行っている。		
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所にポール、移動通路に物を置かない、車椅子の常備、洗濯さおの高さなど事故のないように気をつけている。		
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱、失敗を防ぐため、早期に本人がわかるような目印をつけるなど工夫している。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ミニ家庭菜園、花壇作り、ベンチを置いて外でくつろぐなど活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ 大いに増えている ○ 少しずつ増えている ○ あまり増えていない ○ 全くいない
95	職員は、活き活きと働けている	○ ほぼ全ての職員が ○ 職員の2/3くらいが ○ 職員の1/3くらいが ○ ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての利用者が ○ 利用者の2/3くらいが ○ 利用者の1/3くらいが ○ ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ほぼ全ての家族等が ○ 家族等の2/3くらいが ○ 家族等の1/3くらいが ○ ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

理念に沿った介護をモットーに、自分の介護を振り返ると言う姿勢ができてきた。。 小さい施設のせいもあり、とても家族的雰囲気のあるなごやかなホームです。介護者の年齢層に幅があり発想が豊かであり、一人一人の発想が生かしている。介護職の資格ならず、さまざまな資格をもっており現場で生かされている。資格取得を目標にして勉強している事もあり、来年は6年目にはいるので介護支援専門員の資格取得、認知症ケア専門士などを目指し頑張ります。